

組合だより JA おからく

'22 **9** 月号
vol.243

令和4年9月13日発行

発行：おかやま酪農業協同組合
責任者：小椋 孝史
津山市川崎94-1
☎(0868)26-1101

令和3年度

「牛乳大好き！絵画コンクール」受賞作品

牛乳
勝しか
たん！



優秀賞 教育長賞 岡山県立岡山大安寺中等教育学校2年 山口 真央
— 絵の説明 — 牛乳が大好きという気持ちを込めて牛乳しか勝たん！と書きました。おい
しい牛乳を表せるようにコップに入った牛乳を描きました。

令和4年度期中乳価交渉経過及び結果について

おからくをはじめとする中国生乳販連会員は、急速に悪化する酪農情勢を踏まえ、中国生乳販連へ酪農経営環境の改善に向けて、令和4年度期中の乳価引き上げ交渉を要請した。中国生乳販連では、大手乳業を中心に継続的に乳価値上げ交渉を行った結果、7月15日に大手乳業3社（中販連取引は㈱明治と雪印メグミルク）から酪農窮状への理解から期中値上げに対する回答が出揃い、交渉妥結に向けた組織決定されましたのでご報告いたします。

乳価の期中値上げ交渉について、中販連は他の指定団体に先駆け9月1日から飲用向け15円/kg以上の値上げ要求を行い、さらに西日本の指定団体と連携しながら、
 ①飲用向け（学乳含む）発酵乳等向け及び生クリーム向け15円/kg以上値上げ
 ②チーズ・バター・脱脂粉乳等向けは別途協議する。
 ③改定期日は9月1日とする。
 の3項目を要求事項と定め、交渉を進め、回答期限を6月末日に求めました。

7月15日の大手乳業からの回答

要求・回答内容	中販連 要求	雪印メグミルク	明治
飲用向け(学乳含)	15円以上/kg	10円/kg	10円/kg
発酵乳等向け	15円以上/kg	10円/kg	10円/kg
生クリーム向け	15円以上/kg	言及なし	言及なし
チーズ・バター・脱粉	別途協議	言及なし	言及なし
改定期日	令和4年9月1日	当初 令和4年10月1日 訂正 令和4年11月1日	令和4年11月1日
回答期日	回答期限 6月末日	当初 6月28日 訂正 7月15日	7月15日
備考		両者とは学乳・発酵乳等・生クリーム取引はない	

※森永乳業は明治と同内容

(1) 雪印メグミルク

酪農経営の窮状に鑑み、期日内に上表内容にて回答があったが、他大手2社からの回答が遅れたうえ、11月1日からの値上げ回答となったことで同社も改定時期を後発2社に合わせざるを得ない状況となり訂正が行われた。また、需要減に対する生産者団体の取り組みを基本とする当方の主張に同社は理解を示した。

(2) 明治

乳価値上げ回答の背景として、需給緩和時における小売価格値上げへの影響は不透明で、消費影響を巡る社内議論が長期化する中で酪農現場への対応を先行し、川下転嫁の目安はこれから模索し、需要減少量の査定は今後の協議とする。

値上げ回答に付帯する条件として、

①社内では抱える乳製品在庫は限界水準にあることから、乳価値上げに伴う需給緩和後に発生する乳製品は引き取ることとはできない。

②需要減に伴う乳製品の取扱等に関して指定団体の対応を7月29日までに回答するように要求された。

今後の対応方針

①都府県指定団体に対する大手3社の回答提示は同内容であることから

ら、川下転嫁遂行への作業期間（3ヶ月相当）等を踏まえ、猶予のない状況下にあることから緊密な連携により対応を図る。

②明治から要求されている事項の対応に当たっては、1指定団体で対応できる案件ではなく全指定団体の連携のもとに取り組む課題であり、中酪を中心に対応策を取りまとめることとする。

③川下転嫁が乳価及び乳業側のコスト加算により構成された場合の需要減退への負担は生・処で応分の負担とすべきである。

④この度の乳価改定は令和4年度の期中交渉の位置付けであり、且つ、酪農現場の経費上昇額と大きく乖離した水準にあることから、当面対策として政府・国会に対する要請活動を通じて緊急支援の実現を期する。また、次年度乳価において経費実態を踏まえた要求額に基づく交渉に取り組むものとする。

⑤配合飼料・乾牧草を巡る流通・価格実態及び気象要因を踏まえ、乳成分取引基準の引き下げについて乳業側から積極的な提案を求める。
交渉の妥結に向けて

大手乳業からの回答は値上げ単価及び改定時期の双方において当方の要求水準から大きく乖離している。

また、当方の要求は需給緩和下で更なる消費減退を覚悟したものであり、天災とも言える世界情勢の変化や国策としての低金利政策から発生した円安がもたらすコスト上昇分全てを消費者が負担すべきかという慎重論もある中で、大手乳業からの回答に対して、再考を促し交渉を長期化させるよりも妥結した上で乳業側には流通・小売業者に対して価格転嫁の遂行を促し、生産者側は乳価の不足部分については行政支援を受けられるよう要請活動を行うことが賢明であるとの判断に至った。

以上、期中乳価値上げ交渉については

・改定期日

令和4年11月1日引き取り分より

・改定額

10円/kg

(飲用向け並びに発酵乳向け)との妥結結果となりましたことをご報告いたします。

(中販連販売委員会資料等抜粋)



酪農経営等の窮状に係る緊急対策の実施について

長期化する新型コロナウイルスの影響により、飲用需要は低調が続く、乳製品は過去最多の在庫となっています。

今後とも生乳の需給緩和が危惧され、急激な円安による飼料、光熱費などの生産コストが高騰。生産基盤確保・維持に向け乳価の期中改定の動きが広がり、11月1日から飲用向けを中心に10円/kgの値上げで大筋合意いたしました。

しかし、酪農家の要求とは乖離しており、配合飼料価格、乾牧草価格はさらなる値上りが予測され、加えて副産物価格等が低調なことから収益性は大幅に低下、経営継続に対し危機感が広がり、即効性のある支援を求めています。

このような、厳しい情勢下において、組合として酪農家戸数、生乳生産基盤確保・維持等は、組合運営の根幹に関わることであり、既に生産コスト高騰により疲弊している酪農家等に対し、酪農経営等窮状対策を講じることといたしました。

酪農経営窮状対策について

(1) 乳用経産牛支援対策

令和4年2月1日現在の現況調査に基づき、乳用経産牛1頭につき2万円、哺育牛5頭につき2万円、肥育牛3頭につき2万円の支援対策

を行うこととし、令和4年9月1日以降に乳用経産牛を飼養し、生乳出荷を行う酪農家を対象とする。

ただし、農家1戸当たり1千万円を上限とする。

この窮状対策は、令和4年8月分乳代精算において支援することとする。

・対象酪農家戸数

170戸 概ね1億8千万円

(2) 酪農経営維持支援資金対策

①日本政策金融公庫等による農業漁業セーフティネット資金融資までの間、600万円を上限として、組合がつなぎ資金を無利息で融資する。

ただし、日本政策金融公庫から融資の約定がある場合に限定する。なお、公庫資金の取り扱いについては、9月下旬から各事務所ごとに相談会を開催する予定です。

② 農業まるごとローン(JAトータルプラン農業関連資金)の借入者

に対し、600万円を上限として、最大5年間(運転資金返済期限)の利息並びに債務保証料を助成する。

ただし、上限は10万円とする。農業まるごとローンについては、

お近くのJA窓口でご相談ください。

なお、助成金については、本所経営支援課までお問い合わせください。また、資金対策は令和5年2月末借入分までとします。

肉用牛等窮状対策について

飼料価格高騰並びに円滑な肉用牛生産基盤確保・維持のため令和4年2月1日の現況調査に基づき、哺育牛5頭につき2万円、肥育牛3頭につき2万円として計算し、16%の額を緊急対策として支援し、令和4年9月20日口座振込とする。

ただし、農家1戸当たり1千万円を上限とする。

・対象戸数

39戸 概ね700万円



中国地区選出酪政会議員への緊急要請

新型コロナウイルスの蔓延に伴う世界的な物流の混乱は、海上運賃と飼料価格の高騰を招き、酪農家の生産コストは急上昇しました。さらに、国内外の人流の抑制によりインバウンド需要や外食産業需要が減少し、余乳処理によって発生した脱脂粉乳の過剰在庫を引き起こしました。加えて本年2月下旬のウクライナ軍事侵攻、日銀による低金利政策の継続等による急激な円安など、燃料を含め輸入飼料・資材等は更に高騰を続け、未だ収まる気配がありません。

このような状況の中、酪農経営は過去最悪の危機的状況に陥り、令和4年度の乳価交渉は期中値上げへの交渉となり、11月1日取引分から飲用等向け生乳は10円/kgの値上げとなりました。しかし、生産コスト上昇分を賄うには十分でなく、現状の酪農経営においては支払いが先行し、貯蓄を取り崩し耐え忍んでいる状況です。

この窮状を少しでも早く打開すべく、中国地区酪農政治連盟協議会(委員長 和田 慎吾)は、各県よりの代表者を募り、総勢13名で、8月9日衆参議員会館を訪問し、各県選出酪政会議員及び事務所を訪問し、来

年度予算の概算要求、秋の臨時国会での2次補正予算の編成への緊急要請として以下の支援要請を行いました。

- ・ 輸入乾牧草の高騰による厳しい酪農経営に対する支援
- ・ 高騰する配合飼料価格に対する適切な対応、支援の継続
- ・ 化学肥料価格に対する適切な対応、支援の継続

各国会議員とも、酪農窮状は認識しておられ、国としても補正予算等により窮状を解消したい。飼料価格高騰についても、異常補填等国の支援策を補正予算により確保しており、酪農家支援を継続するとの酪農経営窮状に理解を得られました。また、学校給食用牛乳の期中改定への支援、飼料の国産化へ補助事業の拡充等の後押しについても要請を行いました。

今後も生乳を安定供給するため、政府にはスピード感を持って経営対策を講じていただくことを願います。

(岡山県酪政連事務局)

※岡山からは岡山県政治連盟委員長 三宅穰次、おかやま酪農業協同組合 代表理事組合長 長恒泰治、事務局 入江一憲が上京した。



山下衆議院議員



加藤衆議院議員



平沼衆議院議員



石井参議院議員

酪大フイールド研修報告

日野 翔太（津山支所）

5日間の研修では、座学と現場研修を行いました。

座学では搾乳理論、飼料学、飼養管理学、家畜繁殖学から、酪農の歴史、家畜衛生学まで幅広く講習していただきました。これまで現場で得た知識は断片的なものが多く、今回の研修のおかげでそれらの知識をより深いものにできました。また、体系的にご指導いただいたため、知識



開講式

を整理することもできました。なかでも興味深かったのが、搾乳理論、飼料学、飼養管理学でした。搾乳や繁殖において理想とされる手技や数値の根拠を知ること、理解が格段に深まりました。飼料学に関しても、牛の生理や栄養素を基礎からご教授いただいたため、とても分かりやすかったです。今回得たものを農家さんの経営に少しでも役立てるよう、日々の業務に活かしていきたいと思いました。

現場研修では、牛という生き物相手に「実践することの難しさ」を改めて感じました。乳頭刺激から1〜1分半でミルカー装着、ということ一つをとっても、やりきるのに相当な集中力を要しました。また、わずかな時間でもいろいろトラブルが起こるため、それら一つ一つに迅速に対処するのは大変だと強く感じました。酪農家の苦労の一端に触れることができ、身の引き締まる思いでした。また、指導してくださる酪大の学生さんは皆さん接しやすく、説明も非常に分かりやすかったので驚きました。自身

が学生さんたちの年齢だったときに、こんなにきちんとできていたのだろうか？と思うほどでした。初心を思い出すよい機会となり、たくさんの学びを得ることができました。

5日間で非常に多くの知識と経験を得ることができました。研修期間の中で最も心に残った言葉があり、高見先生の「楽をしたいなら手間をかけなさい」というものです。当時、疾病の牛が多かったため、それに付いて言及したものでしたが、これは何事においてもいえることだなあ、と独り心に刻んでおりました。5日間ご指導いただいた酪大の学生さん、先生方、5日間の業務を肩代わりしてくださった津山支所の皆様、大変お世話になりました。この度は新人でないにも関わらず、このような貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。

池田 吏絵（事業本部流通課）

酪大研修に参加させていただき、初めて牛舎に足を踏み入れ牛に触れることができました。現在の主な業務は事務処理ですが、現場を知って行うものと知らずに行うものとは意味合いが大きく異なるものと思いい、この研修では牧場実習が最大の目的であったと言っても過言ではありません。

つなぎ牛舎で見たホルスタインは想像を超える大きさで、搾乳時には牛の背後にしゃがむことすらためらったほどでした。講義内容を実践しようと試みましたが、清拭に時間がかかってしまった結果、ミルカーを装着する前に乳が下りてきてしまい、本来回収できていたはずの乳量を確認することができませんでした。収入源である生乳が牛床に流れていく光景を見て未熟さを痛感しました。飼料給与では、牛の唾液やウォータークップからこぼれた水で濡れてしまった飼料は牛に食べてもらえないことがわかりました。牛が食べない飼料は無駄であり、経費のロスだけでなく残飼処理の手間を増やしてしまうことから、適切な量を給与し効率よく餌よせすることがいかに大切であるかを学びました。つまり、酪農業を成立させるためには、牛の構造に対する理解と牛の能力を最大限に引き出す援助が必要不可欠であるということを実習と講義の両面から学び取ることができました。

研修を通して考えさせられたことは、農協職員として農家の皆様に寄り添い酪農業を存続、さらには発展させるためにどのようなことができるのかということです。ただ、5日間の研修で酪農の全てを理解するこ



閉講式

した。

枝木 優治（南支所備南事務所）

とは到底できません。研修を学びのきっかけと捉え視野を広く持ち、今後も学び続けることで真に農家の皆様に寄り添い生産現場に軸足を置いた働き方ができるのではないかと思います。

最後になりましたが、お世話になった学生の皆様方におかれましては、それぞれの専門性を活かし今後ご活躍されることを楽しみにしています。また、この度お取り計らいいただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

この度、中国四国酪農大大学院にて行われた、酪農フィールド研修に参加させていただきました。一日の流れとしては、朝に搾乳実習を行い、講義を受けて夕方にもう一度搾乳実習を行いました。4月まで牛を実際に見たこともなかった私にとって、研修で学ぶことや体験することは、とても新鮮で貴重な体験となりました。

搾乳実習では、第一牧場と第二牧場と飼育方法等が異なる二つの牧場を体験することができました。そのおかげで、それまで知識として知っていたただだった牛舎の仕組みや搾乳の手順などを再確認・修正することができて、より深く理解することができました。さらには、体験してみないと分からない、実際の現場の雰囲気や細部に見られる工夫などが学べたことも非常に良かったです。

講義では酪農基礎や飼料、管理演習などについて学ぶことができました。管理演習の中で教わった頭絡のつけ方や牛を歩かせる時の誘導法、

ロープワークについては、明日からでも使える知識として、とても勉強になりました。講義の中には、まだ完全に理解しきれないものもありますが、これから日々反復等しながら業務に励むことで、自分のものとしていきたいです。

酪農以外のところでは、コミュニケーションの重要性についても学ぶことができました。酪農実習の中で、生徒が主体的になって動き、何か意見があるときは先生相手でも積極的に発言をしていました。そうした姿勢、さらには発言できる環境を整えることで、より良い酪農を行うことができるのだらうなと思いました。こうした姿勢を見習うことで業務を円滑に進められるようになります。

最後になりましたが、酪農大学校の先生や学生の方々ありがとうございました。今回の研修で得たものを糧として、今後も日々精進していきたいと思います。

向井扶祐美（南支所西大寺事務所）

この度、7月4日から8日の5日間、中国四国酪農大大学院で開催された酪農フィールド研修に参加させていただきました。研修内容としては、講義と実習の2つがあり、講義では酪農基礎学、飼料学、飼料作

物、飼養管理学、家畜繁殖学、搾乳理論、家畜衛生の7項目を受講いたしました。実習では朝と夕方の搾乳実習、ロープワークや牛舎環境のモニタリングなどの飼養管理演習をしました。牛の生態や成長に伴った飼養管理などを勉強し、搾乳方法やその際の注意点、牛の扱い方など、講義と実習を通して多くのことを学びました。酪農大大学院にはホルスタイン種のいる第一牧場と、ジャージー種のいる第二牧場とあり、第二牧場での搾乳実習は5時からと少し早い時間に行われました。朝が苦手な私には少し辛かったですが、牛と触れ合うことができてとても嬉しかったです。

第一牧場はストロール式の牛舎で、搾乳方法はパイプラインでした。農場でよく見かける搾乳のやり方で、農家さんはいつもどんな風に搾乳をしているのか、どんなことに気を付けて作業をしているのかを考えながら実習に取り組みました。第二牧場はフリーストール式牛舎で、搾乳はパーラー方式でした。たくさんのジャージー牛に圧倒され、初めて見る搾乳機械、第一牧場とはまた違った搾乳方法で驚くことばかりでした。農家さんたちは毎日こんなに朝早く起きて作業をしていて、言葉で知るだけではなく大変さを実際に

体感することができました。とはいえ、当然のことながら、たった5日間では酪農に関する知識や毎日の作業の大変さを完全に理解するには至りませんが、今回の研修に参加して、多少なりとも農家さんの気持ちを理解できるようになったのではないかと思います。

最後になりましたが、5日間という短い間でさまざまなことを教えてくださった中国四国酪農大学の講師並びに生徒の皆様に感謝申し上げます。講義や実習で学んだことを忘れず、さらに知識を深めていき、農家さんを支えていけるように精進してまいります。この度は本当にありがとうございました。

高橋沙也可（総務部総務経理課）

今回、酪農フィールド研修を受講し、酪農について学ぶ機会をいただきました。入組する以前の高校生活でも、以後も含めて現場で牛について学んだことがなく、日々の業務やおからく内での勉強会でも単語を調べたり質問をすることで補っておりましたが、いつも実際の現場のようすを見たいと思っていました。研修では朝夕2回の搾乳、5時間余りの講義を受講することで4日間という短い期間にもかかわらず広く酪農について学ぶことができました。

第一牧場のホルスタインと第二牧場のジャージーでは搾乳手順だけでなく飼育方針も大きく異なるので、期間中は2つの飼育環境で実習に臨むことができました。期間中、第一牧場では偶然にも乳熱に罹った牛と脱水症状に陥ってしまった牛がいて、どちらも治療を一部ですが見学させていただきました。言葉としては知っていても、やはりいざ実際に目にして正常な牛と比較すると文字だけでは分からない特徴があつて、貴重な経験をすることができました。

第二牧場ではキーパーを付ける必要のある牛の他に盲乳の牛が多く、こちらにもよい経験ができました。

中国四国酪農大学の第二牧場はフリーストールの牛舎で、つなぎ飼いの第一牧場と違い牛舎からパーラーまで牛を誘導する必要があるので、動きに気を付けていないと後からやって来た牛の群れに挟まれて身動きが取れないまま押しつぶされてしまいそうでした。怖かったです。

最後になりましたが講



前列左から 高橋・菱川校長・枝木
後列左から 向井・横山・池田・日野

義や実習を指導してくださった酪農大学の先生方をはじめ担当の学生の皆様のおかげで、しつかりとした基礎を築くことができたのではないかと思います。しかし、この研修で再確認することができた最も大切なことは美味しい食品を私たちの暮らしへ届けてくださっている農業に携わる全ての方々への感謝です。これからも豊かな食を維持することの大切さを忘れず励んでいきます。

総務部からのお知らせ 酪農家の皆様へ

令和5年10月から消費税インボイス制度開始に伴い、事前に管轄の税務署に対し「適格請求書発行者の登録申請書」を提出し登録番号を付与していただくことが適格であると考えられます。

既に、登録番号を付与されている方は、その写しを令和5年1月末日までに、おからく各支所事務所まで送付くださいますようお願い申し上げます。

手続きがお済でない方は、別添の「適格請求書発行者の登録申請書」にご記入いただき、（※）本人確認書類添付のうえ、早急に管轄の税務署にご提出されることを推奨いたします。

ご多忙中恐縮ですが、管轄の税務署から登録番号を付与されましたら、その写しを令和5年1月末日までに、おからく各支所事務所まで送付くださいますようお願い申し上げます。

なお、登録申請のお問い合わせは管轄の税務署へ、その他のお問い合わせは、おからく本所総務経理課（0868-26-1101）までご連絡くださいますようよろしくお願い申し上げます。

現況調査まとまる

乳牛総頭数は14,727頭

令和4年8月1日現在での現況調査を行いましたので、その結果をご報告いたします。組合員の皆様には、ご協力いただき、ありがとうございました。

☆戸数・頭数

乳牛の飼養戸数及び頭数は(表1)のとおり174戸、14,727頭と前年8月に比べ戸数では10戸、頭数では495頭の減少となりました。品種別ではホルスタイン種は13,205頭(389頭減)ジャージー種他は1,522頭(106頭減)でした。

飼養戸数の内訳は、(表2)のとおり関係機関を除く搾乳農家が171戸、育成農家2戸、関係機関4戸です。また、肉用牛飼養農家は41戸でした。

経産牛頭数は10,798頭(371頭減)育成牛頭数は3,929頭(124頭減)。搾乳農家1戸当たりの平均飼養頭数は84.6頭(1.9頭増)、平均経産牛頭数は62.1頭(1.4頭増)。育成牛率は26.7%となり、前年とはほぼ同様です。

☆各地区の飼養状況

乳牛飼養総頭数を地区ごとに見ると(表1)南支所では、西大寺地区が173頭減少、備南地区が89頭増頭、びほく地区が9頭減少。津山支所では、勝英地区が1頭増頭、津山地区が151頭減少、真庭地区が252頭減少となりました。

また、育成牛率で全体の平均より高い地区は津山・西大寺・真庭の順となっています。

☆飼養頭数別の酪農家戸数

(表3)の飼養頭数別酪農家戸数をみると30頭未満の飼養農家は55戸(31.1%)、30頭から49頭の飼養農家は44戸(24.9%)、50頭から79頭の飼養農家は39戸(22.0%)、80頭から149頭の飼養農家は26戸(14.7%)、150頭から499頭の飼養農家は10戸(5.6%)、500頭以上の飼養農家は3戸(1.7%)となっています。

☆哺育素牛・肥育・和牛繁殖関係の頭数

哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は9,083頭です。うち哺育農家、肥育農家、和牛繁殖農家の飼養するホルスタイン・F1・和牛等の頭数は7,600頭となっています。

また、酪農家の飼養する和牛・F1等の哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は1,483頭です。

☆飼料作付面積

自給飼料の作付面積については、全体で1,526ha、スーダン・ソルゴー、とうもろこし、その他牧草の順でした。昨年と比較して、全体の作付面積は減っていますが、1戸当たりの平均では増加となっています。(生産支援課)

乳牛頭数等取りまとめ表(表1)

令和4年8月1日現在

	南 支 所				津 山 支 所				おからく 合 計
	西大寺	備南	びほく	小 計	勝英地区	津山地区	真庭地区	小 計	
乳牛飼養戸数 (対前年増減)	28 (-2)	25 (0)	21 (-1)	74 (-3)	28 (-1)	31 (-5)	41 (-1)	100 (-7)	174 (-10)
乳牛総頭数 (対前年増減)	1,055 (-173)	6,309 (89)	1,097 (-9)	8,461 (-93)	2,035 (1)	1,685 (-151)	2,546 (-252)	6,266 (-402)	14,727 (-495)
経産牛頭数 (対前年増減)	703 (-117)	4,791 (18)	815 (4)	6,309 (-95)	1,600 (-19)	1,115 (-112)	1,774 (-145)	4,489 (-276)	10,798 (-371)
経産牛頭数の 占める割合(%)	6.5%	44.4%	7.5%	58.4%	14.8%	10.3%	16.4%	41.6%	
経産牛率(%)	66.6%	75.9%	74.3%	74.6%	78.6%	66.2%	69.7%	71.6%	73.3%
育成牛率(%)	33.4%	24.1%	25.7%	25.4%	21.4%	33.8%	30.3%	28.4%	26.7%
ホルスタイン種	976	6,302	1,097	8,375	2,035	1,685	1,110	4,830	13,205
ジャージー種他	79	7	0	86	0	0	1,436	1,436	1,522

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

おからく現況調査総括表(表2)

令和4年8月1日現在

		南 支 所				津 山 支 所				おからく 合 計
		西大寺	備 南	びほく	小 計	勝英地区	津山地区	真庭地区	小 計	
酪農家戸数	搾乳農家	27	25	21	73	28	30	40	98	171
	育成農家	1			1			1	1	2
	合 計	28	25	21	74	28	30	41	99	173
関係機関戸数	搾乳農家	1			1		1	1	2	3
	育成農家				0			1	1	1
	合 計	1	0	0	1	0	1	2	3	4
酪農場総数 (乳牛飼養戸数)	搾乳農家	28	25	21	74	28	31	41	100	174
	育成農家	1			1			2	2	3
	合 計	29	25	21	75	28	31	43	102	177
肉用牛飼養農家戸数		4	5	4	13	10	14	4	28	41
総農家戸数(関係機関を含む)		33	30	25	88	38	45	47	130	218
ホルスタイン 頭 数	6ヶ月未満	62	284	68	414	110	145	78	333	747
	6～24ヶ月	245	1,068	177	1,490	322	418	259	999	2,489
	24ヶ月以上	669	4,950	852	6,471	1,603	1,122	773	3,498	9,969
	合 計	976	6,302	1,097	8,375	2,035	1,685	1,110	4,830	13,205
	うち経産牛頭数	651	4,786	815	6,252	1,600	1,115	762	3,477	9,729
ジャージー他 頭 数	6ヶ月未満	5			5			85	85	90
	6～24ヶ月	22	2		24			337	337	361
	24ヶ月以上	52	5		57			1,014	1,014	1,071
	合 計	79	7	0	86	0	0	1,436	1,436	1,522
	うち経産牛頭数	52	5	0	57		0	1,012	1,012	1,069
乳用牛総飼養頭数		1,055	6,309	1,097	8,461	2,035	1,685	2,546	6,266	14,727
経産牛頭数		703	4,791	815	6,309	1,600	1,115	1,774	4,489	10,798
乳用牛1戸当たり飼養頭数		37.7	252.4	52.2	114.3	72.7	54.4	62.1	62.7	84.6
乳用牛1戸当たり経産牛頭数		25.1	191.6	38.8	85.3	57.1	36.0	43.3	44.9	62.1

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

地区別酪農家戸数(育成農家・関係機関を含む)(表3)

令和4年8月1日現在

支所・事務所			平均 年齢	飼 養 頭 数 別 酪 農 家 戸 数													計
				1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～79	80～99	100～149	150～249	250～499	500～999	1000～	
南支所	西大寺	小計	65	4	2	5	8	4	3	2	0	1	0	0	0	0	29
	備 南	小計	56	2	3	1	2	2	2	2	1	4	2	1	2	1	25
	びほく	小計	59	3	0	8	5	1	1	0	0	1	1	1	0	0	21
	南支所	計	60	9	5	14	15	7	6	4	1	6	3	2	2	1	75
津山支所	勝 英	小計	58	1	1	5	2	6	2	3	3	3	0	2	0	0	28
	津 山	小計	58	2	2	6	4	2	4	4	2	4	1	0	0	0	31
	真 庭	小計	55	3	1	6	5	3	6	10	2	5	2	0	0	0	43
	津山支所	計	57	6	4	17	11	11	12	17	7	12	3	2	0	0	102
合 計			58	15	9	31	26	18	18	21	8	18	6	4	2	1	177

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

サシバエ対策

はじめに

いつも大変お世話になっております。暑さ去りやらぬ昨今ですが、皆様ますますご活躍のことと存じます。今回は「サシバエ対策」についてお話をさせていただこうと思ひます。

比較的涼しくなってくる時期に活発化するサシバエは牛へストレスを与え、暑熱疲れに拍車をかけるように採食量や生産性に影響を及ぼします。乳牛の健康性・生産性を維持するためにも対策を講じることは重要です。ですので、少しの間お付き合いいただければ幸いです。

サシバエの生態

イエバエと似ており判別が難しいですが、正三角形の体形をしており腹部が赤いのが特徴です。サシバエの成虫は生存期間は約2週間と言われており、羽化後1週間程度で産卵を開始、産卵数は800個におよびます。特に糞尿や劣化した飼料などで汚れ湿った場所はサシバエの発生要因となりますので日常の牛舎管理が重要です。

比較的冷涼な春先、晩夏から秋口に発生が多く、朝晩の吸血を行います。吸血以外は周辺の草むらや日陰

全国酪農業協同組合連合会 大阪支所 中四国事務所 伊藤 湧也

ができる場所で休息しています。

(出典:兵庫「The Fly Project」チーム: <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/hukyu/4iyohou/sasibae.pdf>)

(出典:ANIMAL RIGHTS CENTER: <https://arcj.org/issues/entertainment/zoo/zoo1214/>)

サシバエ対策

○発生を防ぐ

サシバエは糞尿や湿った場所を好んで産卵しますので、小まめな除糞と乾燥で発生要因を作らないことが重要です。特に残餌、バーンクリーナー、尿溜め、水槽・ウォーターカッブ周り、牛舎の四隅は発生要因となりやすいので意識して掃除をしてみてください。

○牛舎への往来を防ぐ

・サシバエネット・ハエ取り紙の設置

4mm以上の目の場合、サシバエは通り抜けてしまいますので2mm以下を推奨いたします。また、サシバエネットは埃で目が詰まりやすく、牛舎内の換気を悪くしてしまいますので小まめな掃除や状態が悪い場合は張替をお願いいたします。

ハエ取り紙については設置の手間

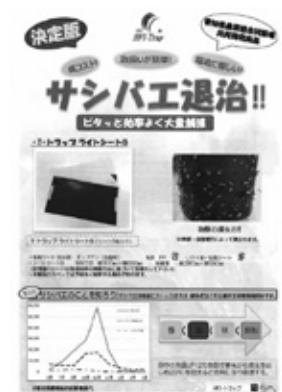


図2 ハエ取り紙シート (TトラップライトシートB)

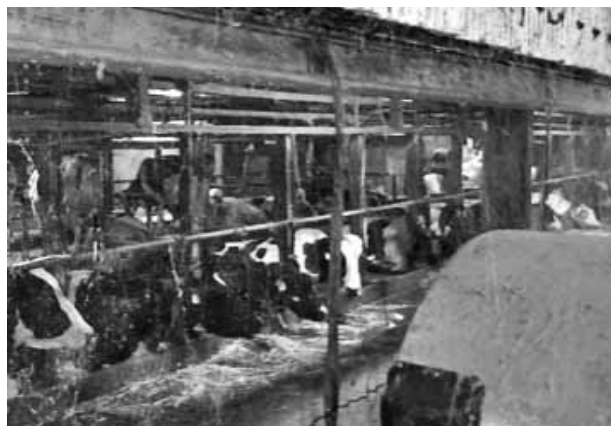


図1 サシバエネット

・牛舎周辺の草刈り
サシバエは吸血以外の時間は草むらや日陰ができる場所で休息しています。

ます。草刈りを行い休息場所を減らしましょう。

・換気扇・扇風機の稼働

サシバエは常時一定以上の風量があると飛ぶことが難しくなり、牛への接触を避けることができます。

・ハッカ油スプレーの利用

ハッカ油に含まれるハーブが昆虫に対する忌避効果を持つていることから牛体・四肢への噴霧が有効です。効果は6時間ほど持続しサシバエの飛来・吸血行動の減少とそれに伴うストレス軽減が見込まれます。

子牛・育成牛に対しても有効です。

【準備物】

・油対応の噴霧スプレー
↓水用の場合、ノズルが詰まりま

す。
・サラダ油 (400g〜500g)
↓水での希釈の場合、ハッカ油の
気化が早くなります。
・ハッカ油 (10ml〜20ml)





(出典：兵庫「The Fly Project」チーム：<http://hyogo-nourin.suisangc.jp/chuo/hukyu/4iyohou/sasibae.pdf>)
(出典：ANIMAL RIGHTS CENTER：<https://arcj.org/issues/entertainment/zoo/zoo1214/>)
(出典：栃木県家畜保健衛生所：牛飼養農家における衛生害虫対策)
おわりに
今回は「サシバエ対策」について簡単に書かせていただきました。ご不明な点がございましたら、お近くの全酪連職員へお問い合わせいただければと思います。今後ともよろしく申し上げます。

「供卵牛情報と採卵計画(10月分)」について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所

10月の採卵計画をお知らせします。
前回から、牛床サイズとの比較データとして、供卵牛の体高、体長データを参考までに追加しました。
ご利用の場合やより詳細な情報が必要な場合は、最寄りの家畜保健衛生所、受精卵移植師の方等にご相談ください。
なお、供卵牛の評価を牛群検定成績から行うため、検定参加農家の方を譲渡対象としています。
また、採卵予定日や交配予定種雄牛は牛の体調・精液の確保状況等により、急遽変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
今回の採卵は11月11日(金)を予定しています。
※ご意見ありましたら、よろしく申し上げます。

上段：供卵牛（元系統）識別番号	牛群改良情報（2022.8月）	採卵 予定日
中段：交配予定種雄牛	評価種別・各指数・評価値	
下段：改良の方向性		
OAC キアリス ハイヌーン キルア キャロットK ET (コスモポリタン) 年 齢 体 高 体 長 03-03 160.9cm 173.8cm 1354972012	GEBV 総合指数 1% 2744 長命連産効果 2% 97218 産乳 1% 2124 耐久性 1% 585 疾病繁殖 41% 35 乳代効果 2% 119659	10/6
交配予定♂：パインツリー I パースーツ ET (米TPI第12位) キルアの特徴は「総合指数で当所トップ（GEBV評価牛中）」であることです。また、脂肪も無脂固形も高く、在群能力も高いため、長命連産効果を押し上げています。今回もパースーツ交配し、脂肪率のさらなるアップ、より長い生産寿命、より高い繁殖性を目指します。	GEBV 総合指数 8% 1444 長命連産効果 10% 69796 産乳 13% 1064 耐久性 24% 251 疾病繁殖 7% 129 乳代効果 11% 83808	
OAC キャロライン キング キヤメロン チャシテイ ET (チャシテイ) 年 齢 体 高 体 長 06-07 162.0cm 183.2cm 1364370372		
交配予定♂：ハートジェンリー リチャード チャール ET (米TPI第13位) この年齢でNTP10%以内を維持しており、しっかりと後代に高能力を受け継がせる安定したファミリーであることが伺えます。今回は、小柄ながら、乳量、乳脂肪率アップなどが見込めるチャールを交配します。		

※GEBV：EBV＋ゲノミックの評価値です。

ミルクレシピ紹介 フルーツ＋ミルク餅



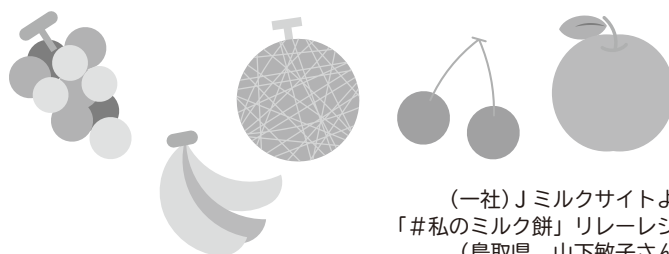
★材 料（2人分）

牛乳.....200ml
片栗粉.....28g
砂糖.....10g
フルーツ缶詰

★作り方

- ①フライパンに牛乳、片栗粉、砂糖を入れ、混ぜ溶かす。
- ②溶けたら中火にかけ、ひたすらしゃもじで混ぜると固まり始めるので、ひと固まりになるように1～2分混ぜる。
- ③バットに平らになるようにのばし、粗熱がとれたら1時間ほど冷やし固める。

※冷たいミルク餅はいろいろなフルーツソースと合うので試してください。



（一社）Jミルクサイトより
「#私のミルク餅」リレーレシピ
（鳥取県 山下敏子さん）

「第11回全国モーモー母ちゃんが集いしまね」のご案内

毎日牛と苦楽をとともに生きる全国の牛飼いの仲間同士が交流し、女性の立場から後継者育成など、次世代につながることを目的に開催します。

開催日

令和5年3月9日（木）～10日（金）

参加者

約250名（全国の牛飼い母ちゃん並びに関係機関団体役員ほか）

参加費

①大会、交流会および宿泊の場合
1人当たり 17,000円

申込締切

令和4年9月30日（金）

参加申込方法及び詳細につきましては、岡山県畜産協会 おかやまフォーベルネット事務局（086-1222-8575）または、おからく生産支援課（0868-2611106）までお問い合わせください。

②大会および交流会の場合
1人当たり 12,000円
③大会のみ参加
1人当たり 2,000円

人 事

異 動

令和4年9月1日付
森中 友美（事業本部生乳課）
（事業本部鏡野CS）

英保 美咲（総務部付）
（事業本部生乳課）

採 用

令和4年9月1日付
杉本 祐太
（事業本部鏡野CS（臨時））

退 職

令和4年8月31日付
横山 愛華（津山支所）
大変お世話になりました。

よろしくお願いいたします。

倉田 春樹（津山支所 ヘルパー）



加茂料理教室

7月28日、ふれあい料理倶楽部の方を対象に「牛乳を使った料理教室」を津山市加茂町福祉センターで行いました。

ふれあい料理倶楽部は、65歳以上の高齢者を対象に、地域の交流の場としてさまざまな生きがい・ふれあい事業への取り組みとして、毎月1回料理を作り、互に交流を深められています。毎年7月に講師依頼が



牛乳を使った料理を楽しんで作っていました

り、牛乳乳製品を使った料理を津山地区酪農女性部の方にお手伝いいただき一緒に行いました。

今回のメニューは、「簡単！手抜きうどん」「チーズだし巻き」「ミルクポテトサラダ」「切り干し大根の煮物」「夏に食べたい栄養満点！牛乳豆腐」の5品を作りました。

「簡単！手抜きうどん」は、ビニール袋に材料と牛乳を入れ練りこんで、手を汚さず洗い物を出さずに手軽にできます。「チーズだし巻き」

は、卵の中にカツケージチーズを入れて作るだし巻き卵です。「ミルクポテト

サラダ」は、ジャガイモを茹でるのに水を使用しないで牛乳を使います。牛乳で煮るとマヨネーズを絡めたようなネトリとした仕上がりになります。コクと旨味が出ます。「切り干し大根の煮物」は、牛乳・水・めん

つゆで煮て、他に調味料は使わないので減塩になりました。「夏に食べたい栄養満点！牛乳豆腐」は、暑い夏、食欲がない時に簡単に作れて、しょうが醤油で食べてもいいしデザートにもなります。

今回も昨年同様にその場

理事会報告

で試食せず持ち帰っていただいたので、食べた感想は直接お聞きできませんでした。したが、「調味料を控えて、牛乳で作った料理がどんな味がするのか楽しみ」「減塩になるので体に良さそう」「家族に食べさせたい」

と言う声が聞けました。今後、いろいろな活動を通して牛乳の消費拡大を行っていきたいと思います。レシビ等は生乳課までお問い合わせください。(生乳課)

令和4年7月29日、第261回理事會を理事11名、監事3名が出席し、開催した。

長恒組合長より酪農一般情勢等について報告された。

その後、次の事項を協議し、決定した。

○令和4年度生乳需給安定化対策

令和4年度6月の生乳需給安定化対策の進捗状況等について報告した。

○資産査定規程等の一部改正について

預貯金等受入系統金融機関に係る検査マニュアルの文言の変更に伴い、資産査定規程等について一部変更することを承認した。

○コンプライアンス・マニュアルの一部変更について

J Aの全役職員が常備し、事務所内研修での読み合わせ等に活用するコンプライアンス・マニュアルの修正等に伴い、コンプライアンス・マニュアルについて一部変更することを承認した。

○抗生物質混入事故防止対策について

抗生物質混入事故防止対策について協議し、防止対策内容を決定した。

○酪農窮状下での提案について

現在の酪農窮状下に行える対策について協議し、酪農経営等緊急支援対策を講じることを決定した。

○監査報告の文言の訂正について

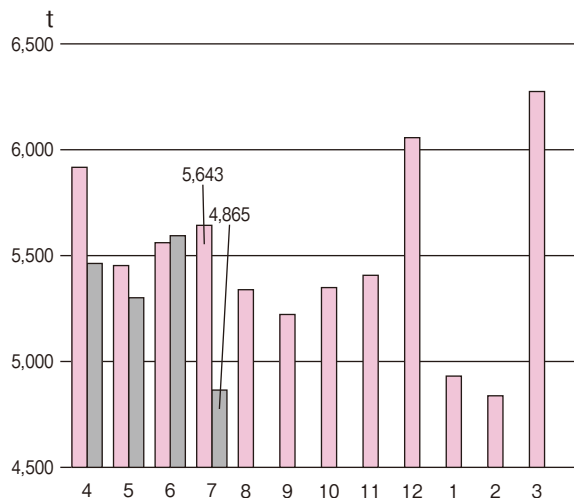
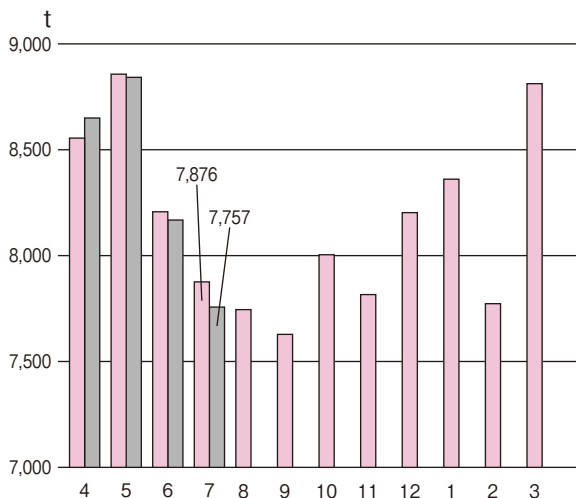
監事より監査報告書の文言の訂正の申し出があったので内容を確認し、承認した。

○報告事項

第1四半期苦情等の報告について、配合飼料特別対策の取り扱いについて、全戸巡回の留意事項について報告した。

おからく事業実績

生乳販売量(令和4年度) 生乳販売量(令和3年度) 購買取扱数量(令和4年度) 購買取扱数量(令和3年度)



生乳統計

※中央酪農会議速報より抜粋

地域	月	生産量(トン)	用途別処理量(トン)			前年比(%)			
			飲用乳等向け	乳製品等向け	その他	生産	飲用乳	乳製品	その他
全国	7	606,611	310,332	143,899	152,380	100.4	99.8	100.5	101.3
	4~7	2,471,384	1,227,673	649,624	594,083	100.6	97.8	104.3	102.4
岡山県	7	7,740	7,521	136	83	98.3	97.4	178.9	106.4
	4~7	33,354	31,436	1,503	414	99.7	98.5	132.2	105.1
北海道	7	352,934	78,388	126,956	147,590	100.5	102.0	98.7	101.3



9月の主な行事

7日 全国酪農民緊急特別集会

(東京)

20日 県常例検査(～21日)

22日 管理職会議

28日 蒜山地区全戸巡回

29日 理事会・県常例検査講評

北海道初妊牛価格

8月については、例年であれば秋分挽に移行し引き合いが強まる時期となるものの、飼料等のコスト増や初生の価格低落など先行きの不透明感さらさら強まっており、平均価格は税込51万6千円(前月比1万9千円安)と弱含みで推移しました。

9月については、出回り頭数が増加する中、暑熱期を終えて更新需要が強まる時期となるものの、飼料等のコスト増に加えて全国的に初生相場が暴落するなど不安要素が多く、相場は弱含みで推移することが予想されます。